

019

AI を活用し、災害時の被害状況の可視化 や予測シミュレーションを行うソリューション 「Spectee Pro」

取組主体

株式会社 Spectee

従業員数

80 人

想定災害

全般

実施地域

東京都

- SNS 情報や気象データ、各種カメラ映像、衛星データ等を AI で解析し、災害の被害状況をリアルタイムで地図上に可視化するとともに、将来の被害状況を予測シミュレーションするサービスを提供している。

1 取組の特徴（はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点）

自治体等のニーズに合わせ、AI による被害状況の可視化や災害予測を行う「Spectee Pro」の提供

- AIを活用し、防災や危機管理に関する情報ソリューションを提供する株式会社 Spectee は、SNS や気象データ、河川や道路のカメラ映像、衛星データ等を AI で解析し、災害発生直後に被害状況をリアルタイムで可視化し、その後の被害の予測シミュレーションを行う「Spectee Pro」を提供している。これまでに約 600 社の企業、100 以上の自治体や官公庁に導入され、災害時の被害状況の把握や初動対応、リスク分析に役立てられている。
- 同社代表が東日本大震災の発生直後から災害ボランティアを続ける中で、被災地からの情報共有の脆弱性を実感したことをきっかけに、より迅速に正確に情報を収集し共有するシステムの開発を開始した。平成 26 年 5 月、同社は AI を活用して SNS の情報をもとに正確な発災場所等の情報をリアルタイムに配信するサービス「Spectee」をリリースし、主に報道機関に広く採用された。
- 従来の「Spectee」は、SNS の情報を抽出し、タイムラインに次々と新しい情報を配信するという速報性に特化したサービスである。そのため、タイムラインの上に表示されている情報を目で追って現場に向かうかどうかの判断を行う報道機関にとってはニーズに合っているが、どの地点でどのような被害が発生しているかという詳細な被害状況を確認したいという自治体や企業の防災担当者等のニーズには応えられていなかった。
- こうした自治体等のニーズに応えるために開発した「Spectee Pro」では、SNS 情報だけでなく気象データや交通データ等、各地の様々な情報ソースをリアルタイムに収集し、AI で総合的に解析して現状や予測結果を表示する。各情報の表示／非表示を選択することで必要な情報だけを地図上に表示でき、地図の拡大縮小によって自治体ごとに適した区分で管理することができる。



Spectee Pro の画面イメージ

専門の情報分析チームが提供する情報を精査

- 緊急対応を迫られる災害発生時には、単純に多くの情報を得ることよりも、得られる情報の正確性が担保されていることが求められる。一度に大量の情報が届けられることは逆に現場や指揮系統の混乱につながる恐れがある。「Spectee Pro」においては、デマや誤情報の分析を含めて、情報の収集や解析を AI が行っているが、そうした情報が正確なものであるか否か、最終的に人の眼によって確認され、優先度が高いと判断されたものから情報が配信される。
- 同社では、こうした情報の確認、配信を行うための専門チームとして、情報分析チームを設けている。専門チームは災害対策や危機管理について研修を受け、訓練を経た約 25 人で構成され、24 時間体制で稼働し、配信される情報の正確性を担保している



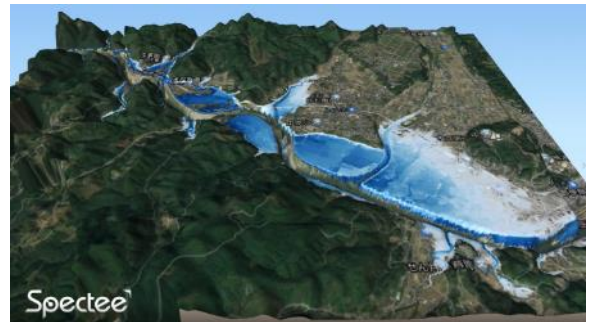
情報分析チーム



自治体での Spectee Pro 活用の様子

リアルタイム情報をもとに、その後の被害の予測シミュレーションをする技術を開発

- 「Spectee Pro」は、従来の「Spectee」にはなかった災害予測の実装に取り組んでいる。過去や現在の災害を可視化するだけでなく、未来の可視化のための予測精度をより高めていくことで、危機管理行動につながり、被害を最小限に抑えることができる。
- 豪雨等による河川氾濫の際に、SNS に投稿された画像をもとに、河川氾濫直後からわずか 10 分以内で浸水状況を 2D 及び 3D の地図上に再現するとともに、AI によるリアルタイム浸水推定技術を用いて今後の浸水状況を 2D 及び 3D 地図上に予測シミュレーションする技術の開発を進めている。



3D 地図上での浸水被害の予測シミュレーション

2 取組の平時における利活用の状況や防災・減災以外の効果

- 鉄道や航空、空港等の交通インフラへの「Spectee Pro」の導入も進んでいる。災害発生時の道路の寸断や電車の運行停止等の情報を豊富に保有することから、運行ルート最適化等の交通間連携の側面での活用を提案している。
- 令和 3 年よりビジネストラベルマネジメント（BTM）の観点から旅行業への提案も行っている。どこかでテロが発生したという危険情報等を、一般的なメディアの第 1 報より早く伝えることができ、安全確認が素早く実施可能となる。

3 現状の課題・今後の展開等

- 現在、力を入れているのが災害発生時のリアルタイム予測の部分である。今を可視化するだけでなく、この後の被害がどうなるかを正確に予測する技術の開発を進めている。

4 周囲の声

- 災害状況の見える化がこれまで以上にできるようになり、初動対応の迅速化が図れた。（地方自治体）

担当者の声

- 防災についての AI の活用は、気候変動等で激甚化する災害対応には必須となります。スペクティでは、「危機を可視化する」をミッションに、災害対応をデジタル化し、すべての人が安全で豊かな生活を送れる社会の創造を目指しています。

問合せ先

株式会社Spectee 法人番号：4030001063205
TEL：03-6261-3655 FAX：03-6261-3656 E-Mail：pro@spectee.com

サイト URL



動画

